

メビウスのレポート

特定非営利活動法人メビウス千葉 活動報告 2021年4～6月号(7月1日発行)



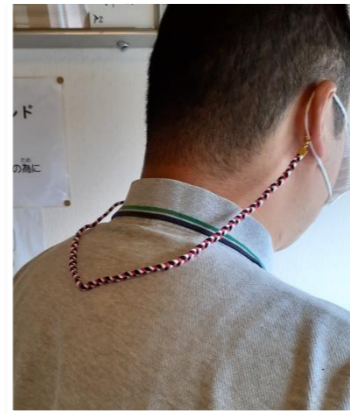
初夏の候、皆様ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃よりメビウス千葉の諸活動に対するご理解、サポート、見守り等心温まるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

これまでメビウス千葉会員の皆様を中心に、一部の入寮者のご家族に送付を行ってきたメビウスレポートですが、ご好評をいただいていることから、この度ご家族の皆様へ送付させていただく運びとなりました。

今後も引き続きご支援・ご指導を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

日中活動紹介。

メビウス千葉では、主な活動として2017年4月から株式会社マイベジタブルにて月・金曜の午前中に農作業(当初はパクチーの選別・包装でしたが、現在はミニトマトの収穫作業)、2018年6月から火・金曜の午後にデコパージュ(デコパージュとは、絵のついた薄い紙を石鹸などに貼り装飾する工芸)を行ってまいりました。4月中旬より、先方の都合によりマイベジタブルでの作業が中止となり、今年1月からデコパージュの時間に制作してきたマスクストラップを、マイベジタブルの時間にも制作することになりました。マスクストラップとは、マスクを一時的に外す際、首から下げられるようにするもので、これからの暑い季節には水分補給のためマスクを外す機会も増えることから、重宝されることが期待されます。



【マスクストラップ装着】

はじめはリボンを切って金具を付けるだけでしたが、面白くないことから、毛糸や綿の紐を編んでカラフルなマスクストラップを制作するようになりました。しぶしぶ参加している寮生もいましたが、色を選ぶのが得意な者、新しい編み方に挑戦する者、編むのは苦手なので金具付けやラッピングをする者など役割分担をして作業を行っています。販売は美容室に委託して行っていますが、製造数が増えてきたことから、活動の一環として6月27日の「いい街千葉フリーマーケット」での販売を行うことになりました。準備を進めてまいりましたが、あいにく当日は雨予報のため中止となってしまう、7月25日の出店を目指して作業を続けています。

気分転換を図るため、5月には千葉ポートパークにてバーベキューを行いました。普段は食べられない国産牛肉などを食べて、リフレッシュできたようです。体を動かす作業のほうが向いている者もいるため、6月には本町小学校前の草取りを行いました。久しぶりに汗を流して、その後の昼食もおいしく感じたようです。メビウス千葉では、各種資格取得の支援を行っており、現在2名が福祉の資格取得のため通信制大学に在籍しています。これまで普通自動車免許の取得支援を行ってまいりましたが、免許を所持しているものの、入院や刑事施設に入所していたためにしばらく運転しておらず、ペーパードライバーになっている者もいました。希望者にペーパードライバー講習を開始したところ、普段は見られない景色が見られることから気分転換となり、好評なようです。

今後はさらなる活動充実のため、メビウス千葉で農業法人の立ち上げ、就労継続支援B型事業所の立ち上げを目指しています。詳細は今後のメビウスレポートでお伝えしてまいります。

メビウス動静報告。(2021年4月～6月)



2021年4月

- 窃盗症の女性1名が入寮しました。女性は下総精神医療センターへの入院待ちでしたが、その間に再犯し逮捕され、メビウス千葉への入寮継続と下総精神医療センターへの入院を条件に釈放されました。女性は釈放後入院しました。
- 先月終了した高岡先生によるサイコセラピーに代わり、施設長の鈴木による利用者への面談が開始されました。各利用者月1回のペースで毎週水曜に行われます。
- マイベジタブルでのミニトマトの収穫作業が終了しました。7月に再開予定ですが、その間月曜・金曜の午前中はデコパージュを行うことになりました。
- アルコール症・インターネット使用障害・処方薬乱用の女性1名が見学を行いました。
- 糖尿病の女性が脱水症状のため倒れ、市立青葉病院に救急搬送されました。女性は翌月栄養管理指導のため下総精神医療センターに入院しました。
- 性犯罪及び盗癖の男性がタクシーの無賃乗車で帰寮しました。その後、強制性交致傷の疑いで逮捕されました。
- 男性1名が情緒不安定になり、下総精神医療センターに入院しました。
- 女性1名が退院しました。

2021年5月

- 窃盗症の男性が、以前万引きしていた様子が防犯カメラに録画されていたことから、再びその店を訪れた際に職務質問され、任意同行となりました。男性は裁判を抱えていたため、下総精神医療センターへの入院を条件に保釈されました。
- 千葉ポートパークにて、バーベキューを開催しました。当日は天候にも恵まれ、21人の寮生が参加しました。
- 先月見学を行った女性が入寮し、別の病院から転院し下総精神医療センターへ入院しました。
- 性犯罪の男性が、痴漢行為の疑いで逮捕されました。
- ペーパードライバー講習を開始しました。
- 処方薬乱用の男性が下総精神医療センターを退院し、入寮しました。男性は数日後、不安のため自ら救急搬送を要請し、下総精神医療センターに再入院しました。
- 性犯罪の男性1名が入寮しました。

2021年6月

- 摂食障害および窃盗症の女性1名が体験入寮を行いました。
- 薬物乱用の男性が下総精神医療センターを退院し、再入寮しました。
- 女性1名が情緒不安定になり、器物損壊などを行い、下総精神医療センターに入院しました。
- 男性1名が銃刀法違反で逮捕されました。
- ボランティアの中山さんが来所し、見学を行いました。



- 窃盗症の男性1名が実刑判決を受け、収監されました。
- 男性1名が退院しました。

※6月末時点での在籍者 男性18名 女性16名 総在籍者34名

相談支援事業所を開設しました！



2021年5月1日より「相談支援事業所・メビウス」が開所しました。

これは障害者総合支援法における指定特定相談支援事業所で、障害福祉サービスを利用する際の計画を立案することが主たる仕事です。(介護保険制度でいうところの、ケアマネージャーにあたります。)

近年メビウス千葉利用者の中で、障害福祉サービス利用したいというニーズが増えています。個々のサービス(就労継続支援B型、就労移行支援、自立訓練などの通所サービス)を利用するには、相談支援事業所と契約し、「サービス等利用計画書」を作成してもらう必要があります。しかし、相談支援事業所はどこも人員不足で、契約に時間がかかる現状がありました。メビウス千葉の正職員である川口は、相談支援専門員の資格を持っていたため、この度、相談支援事業所を開設するに至りました。

現在はメビウス千葉の利用者を対象としていますが、今後は外部からの相談も受け付ける予定です。

☆事業所の概要☆

事業の種類	指定特定相談支援事業(令和3年5月1日指定 第1230100909号)
事業所の名称	「相談支援事業所メビウス」
事業所の所在地	千葉市中央区道場北2-10-9(メビウス千葉アネックス1F)
管理者	鈴木 康之
相談支援専門員	川口 徹

☆相談支援事業所メビウス 動静☆

4月	男性1名、ワークショップ鎌取体験、契約、通所開始。
5月	相談支援事業所メビウス 開所。 男性1名、女性1名、ワークショップ鎌取見学、女性のみ体験。契約に至らず。
6月	川口、中央区相談支援意見交換会・研修会に出席。 女性1名、マックスアカデミー見学。

寄付金のご協力をお願いします。

前号から引き続きのお願いとなり恐縮ではございますが、メビウスは千葉まちづくり応援寄附金の対象となっております。千葉市まちづくり応援寄附金制度とは、『一定の要件を満たした対象団体の中から、応援したい団体を指定して寄附ができる千葉市の新しい制度です。「まち寄附」は、ふるさと納税制度による税控除を受けることができるので、まちづくり団体へ気軽に寄附をすることができます。』(下記ホームページより)

何卒ご協力のほどお願い申し上げます。

千葉まちづくり応援寄附金 ホームページ

<https://www.city.chiba.jp/shimin/shimin/jichi/machikifu-top.html>

ブックレビュー。



①『あなたのためなら死んでもいいわ』～自分を見失う病“共依存”～』水沢都加佐著・春秋社

「持ちつ持たれつ」「ギブアンドテイク」という言葉がありますが、それがお互いに過剰になってしまい、お互いがお互いを束縛し合う、または頼り切ってしまうのが「共依存(アメリカ発祥の概念)」という状態です。この本には、その「共依存」と言われる状態の解説とその回復方法が、比較的平易な文章で紹介されています。その回復方法の中には、下総精神医療センターで開発された治療法である条件反射制御法(CRCT)で行われている「辛かった事・よかった事の書き出し」に近い方法や、同じく下総精神医療センターでも実施されている内観療法も紹介されています。

端的に共依存という状態を防ぐためには、お互いの責任の所在及び境界線を把握し、それらからは決して越えて介入しないという事だそうです。ここで、中国の老子の言葉を紹介します。『人に魚を与えると1日で食べてしまう。しかし人に釣りを教えれば、一生涯食べていくことができる。』

②『反省させると犯罪者になります』岡本茂樹著・新潮新書

「反省させると犯罪者になる」?そんなはずはないだろう。そう思われた方も多いのではないのでしょうか。反省の必要がないと言っているのではありません。問題が起きた際、周囲が「反省させた」のでは、真の反省は得られないばかりか、かえって逆効果になってしまうことさえある、というのです。

著者は大学教員として生徒指導を行う経験から、反省文を書かせることに効果がないことに気付きます。その後篤志面接官として、刑務所内で受刑者の改善指導に入り、被害者の視点を取り入れた教育も上手くいっていないといいます。では、どうすればいいのでしょうか。問題を起こすには本人なりの理由があり、反省させるよりも、本人の視点に立って「何故そのような行動に至ったのか」を一緒に考えていく必要があります。自分の気持ちが整理されてくるにつれ、次第に相手のことが考えられるようになり、最後に反省が湧き上がってくるといいます。

早急に反省したという「結果」を求めると、上辺だけの反省になり、支援者と対象者の信頼関係を築くことはできません。支援者がよかれと思ってしたことが、かえって事態を悪化させていないか、反省が必要なのは支援者の方なのかも知れません。

編集後記。

この3か月間で、3名の逮捕者があり、非常に残念な結果となってしまいました。支援者の方々、ご家族の皆様は少なからず、メビウス千葉に「再犯防止」を求めていらっしゃるのではないかと思います。しかし、メビウス千葉は生活訓練の場であり、確実に再犯を防止するための場所ではありません。再犯防止を第一に考えるのならば、誰かが行動を監視し続け、制限し続けることが必要です。それは現実には不可能なので、「再犯しそうな人はずっと刑事施設にいるか、入院し続けるしかない」ことになってしまいます。

メビウス千葉では、条件反射制御法の維持作業を柱としながら、日中活動の支援を行っています。人は、物理的な生活の場(衣・食・住)の他に、仕事や役割を必要としています。その人一人一人に合った役割や活動を持つことで、人とつながり、生活に充実感を感じたり、自分に自信が持てるようになります。

新型コロナウイルスの影響により、ここ1年間は思うように活動できないこともありました。相談支援事業所の立ち上げにより、今後も地域のあらゆる社会資源と連携しながら、生活支援を行ってまいります。